



## はじめに

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊田, 久美子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/16230">http://hdl.handle.net/10466/16230</a>

## はじめに

女性活躍推進法の旗印のもと、主に経済的関心のもと、女性の「活用」政策が進められています。同時に外国人家事労働者の導入も進められ、すでに神奈川、大阪では特区に名乗りをあげ、東京もそれに続こうとしています。家事労働者の需要は近年急激に増加し、労働者不足が顕在化しています。人材派遣会社などの関心は高く、素早い対応が始まっています。一方外国人労働者の労働条件はこの分野においても深刻な問題になっています。昨年ケア労働者として大阪で働く外国人労働者たちが劣悪な労働環境を告発し裁判が続いています。家事労働者の国際移動は国際的には前世紀末から本格化し、グローバル・ケア・チェーン（ホックシールド）と呼ばれる女性間でのケア労働の連鎖が進んできました。家事労働者受け入れ「後発国」である日本においては、「女性活躍」の「下支え」を担う家事労働者問題は、女性労働問題の試金石であり、かつ今日なお圧倒的に女性に担われているアンペイド・ワークとしての家事労働を労働問題の中でどのように位置づけるかという70年代以来のフェミニズムの課題に、あらためて焦点を当てるものでもあります。

今期の女性学講演会は、10月～12月の月末に3回にわたって、フェミニズムにおける家事労働論を振り返りながら、国内外における家事労働の新たな局面を考察してまいりました。この3月にはすでに外国人家事労働者が特区に到着しています。私たちの社会が家事労働をどのように位置づけ、外国人労働者をどのように迎えるのかは喫緊の課題として問われています。

この記録集が今後の社会を展望するための一助となりますよう願っています。

2017年3月31日

コーディネーター：伊田久美子（本学教員 女性学研究センター）